

わたしたちのまち東大和の福祉祭

昭和53年に始まった福祉祭は平成を駆け抜け、令和元年の今年で42回目を迎えます。福祉祭は参加する団体から選出された実行委員によって運営されています。福祉祭の魅力やこれからのめざすべき姿などについて、本年度の正副の実行委員長と企画委員長からお話をうかがいました。



小林美智子実行委員長
民生委員・児童委員協議会会長。約27年福祉祭に携わる

今、福祉祭に思うこと

小林 私たち民生委員が始めた福祉祭が、昔年になく賑わって、お祭り気分が、昔と比べて障害や障害者への理解が進んだと実感しています。まだまだ途上ではありますが、

福祉祭としては「しゃきょうのたまちゃん」が歩く姿がほほえましいですね。キャラクターとして定着してきました。

鈴木 パザー終了後、民生委員が工夫していることは、売り上げを気にせず参加を、といわれますが、やはり金銭面でも地域福祉に協力したいという思いは残っています。未来を担う子どもたちに福祉祭を知ってもらうために、ゲームコーナーなどをやってみようかと、今後は金銭面の協力もさかり目指したいです。

上岡 私は精神障害者のグループホームとして参加しています。精神障害の偏見や誤解を招くような風潮もありますが、福祉祭のようなイベントに出ることで理解が広がります。また利用者さん本人が周りの目を気にしている場合がありますが、ここに出ることで「そうでもない」と気づけることもあります。

菅野 私たちにとっては、工賃確保の重要な機会です。参加するメンバーにとっては仕事の日、働く場、という意味合いも強いですが、作業所として工賃確保の機会という理解も大切ですね。



上岡伸年企画委員長
かたつむりの会作業所職員。

上岡

もちろん、ふれあいの機会でもありますが、1日だけなのでどこまで効果があるかはわかりませんが、障害のある方とふれあうことは確実に理解を深めたいと思います。

菅野 私はボランティアグループとして長く関わっています。グループのメンバーは、はじめは若く、あれもこれもと活動していましたが、最近は福祉祭が最大の活動の場で、そこでお互いに元気な様子を確認していただいている方が、年に1度の再会の場にもなっています。

福祉祭の思い出は？

小林 民生委員になってからなので、27年ほど参加してきました。当時とはとにかく「忙しかった」という印象です。パザーの品物がとても多くて、民生委員にとっても福祉祭は大切な親睦の場です。協働で作業するところがまだ、6年の参加です。

鈴木 この間にパザーの終了等大きな節目がありました。グループホームは通過型の施設で、利用者さんはいずれ地域で生活されるようになります。かつての利用者さんが福祉祭に来場して再会できることもあります。私は10年くらいは参加しています。

上岡 作業所として参加する中で、作業所となり、すぐ副実行委員長をやらされ（笑）ました。それが一番の思い出です（笑）。



菅野文字子副企画委員長
グループ花みずきなどで福祉祭に参加。

今後の福祉祭に期待すること

小林 こどもたちがもっと福祉祭の活動に加わってほしいです。ね。その親御さんを含め、もっと多くの人が福祉祭を知ってほしいです。福祉祭を「知らない人はまったくない」という状況を変えていきたいです。



鈴木一広副実行委員長
グループホームなんがいがい職員。1児のパパ。

鈴木

障害などへの理解の向上も大切ですね。地域の活躍する機会はある方が増えています。子どもたちが、地域では多様な人が生活していることを知る場になればいいですね。

上岡 携わるようになってから自分も子どもが生まれ、2年ほど来場しています。子どもたちが共生社会について理解する場になることを望みます。直近では中高生に福祉の仕事を覚えてもらい、福祉の担い手を志してくれたらいいと思います。

菅野 中高生のボランティアがいてほしいですね。当日だけでも参加して欲しいです。

小林 携わるようになってから初めて企業協賛を募り、18件の協力を得ました。金銭面もさることながら、福祉祭が伝えたい「優しい」「思いやり」の心が企業に伝わると思います。私たちが企業に応援されていると思うと励みになります。

上岡 これまでの歴史を大切に、でも新しいものを取り込んで、すばらしい福祉祭にしたいと思います。

今年の福祉祭に向けて

福祉祭は40年以上の歴史を重ねてきました。時代にあわせて変えていくべきものがあると感じました。「変えてはいけない価値」もあると感じました。今、私たち福祉祭に携わる人たちが楽しく安心して活動できるのは、先輩たちが着実に積み上げてきた成果です。大切に、実行委員をはじめ社協職員も一丸となって42回目の福祉祭準備に取り組んでいます。ぜひ、ご期待ください。

未来を担う子どもたちからのメッセージ 福祉標語を通じて

令和元年福祉標語最優秀賞

『あいつはみんなの心にたねをまく』

最優秀賞を受賞した別所 彩さん(九小二年)とお母様にお話を伺いました。



お母様と彩さん

彩さん はじめに、最優秀賞受賞、おめでとうござります。この福祉標語は、毎年市内すべての小学生から作品を募集し、各学校で1作の優秀作品を選出し、さらに、社会福祉協議会のボランティア・市民活動センター運営委員会で最優秀賞を決定したもので、多くの中から選ばれたのは知っていましたか？

母 「……(は)に(か)んで首(を)振る。」

彩さん 本人はよくわかっていないように家族の方が喜びました。ふだんの彩さんの様子を聞かせて下さい。好きなことはなんですか？

彩さん 絵を描いたり、粘土や工作やお料理することが好きです。自分で考えて何か作ることが楽しいです。お花や野菜を育てることも好きです。次はほうき草を育てて自分だけのほうき草を作ろうと思っています。



※福祉標語の表彰式を11月10日(日)開催の福祉祭で行います。多くの皆さまのご来場お待ちしております。

ボランティア・市民活動センターより

学んで!体験!災害時のボランティア 東大和市災害ボランティアセンター 設置・運営訓練のご案内

報道などで最近よく耳にする「災害ボランティアセンター」。みなさんはご存知でしょうか。ここ東大和でも大きな災害が発生した際は、被災者の復興支援の機関として設置されます。では、設置される場所はどこでしょうか。みなさんがご自宅で防災グッズなどを備えているように、災害ボランティアセンターについても、事前に学んでおきませんか?災害ボランティアセンターのことを知っておくと、災害時きつとお役に立つと思います。

今回の訓練は、災害ボランティアセンターの役割についてお伝えすることと、実際に災害時にどのようなボランティア活動が行われるのかを体験してみる訓練になります。ぜひ、多くの皆様の参加をお待ちしております。

- ◆日時 令和2年1月25日(土)午後1時30分より(受付午後1時より)
- ◆会場 ハミングホール(エントランス、小ホール等)
- ◆お願い 当日は動きやすい服装でご参加ください。
- ・ハミングホールからボランティア体験をする場所(内容に応じて市内各所)へ自転車または徒歩で移動することがあります。
- ・午前中は災害ボランティアセンターを運営するスタッフの訓練を行います。スタッフとして参加してみたい方もお問合せください。
- ◆申込み 東大和ボランティア・市民活動センター
問合せ TEL 042-564-0035
FAX 042-564-3680
※1月17日(金)までに申込みください。
※社協HPからも申込みできます。



台風15号千葉県災害 派遣職員レポート

去る9月8日に関東地方を直撃した台風15号では、千葉県を中心に停電や断水などインフラに甚大な被害が発生し、日を迫るごとにその深刻さを増していきました。東大和市社会福祉協議会では、応援協定(※2)に基づき現地に職員を派遣し、災害ボランティアセンターの運営に携わりました。派遣職員のレポートです。

派遣期間: 令和元年9月23日~27日
派遣先: 千葉県鋸南町災害ボランティアセンター
派遣職員: 山崎主事(地域福祉係ボランティア担当)

令和元年度台風15号千葉県災害の応援派遣を終えて・・・

私は初めて被害に遭われた現地に応援派遣に行ってきました。普段の業務がボランティア担当のため、災害ボランティアセンターについては平時からマニュアル等の作成を通じて理解をしているつもりでしたが、実際の現場に行き大変さを痛感しました。

今回は台風による災害だったため、いたるところで屋根が飛ばされるなどの被害が出ており、町内を見渡すとブルーシートが目につく状況でした。そのような状況で出てくるボランティア依頼の内容を知ることができ、今回経験を経て学んだことを当市でも活かしていけたらと思います。これからも鋸南町の復興を見守ってきたいと思っています。



※2 大きな災害が発生した場合、都道府県社協を通じ、被災地の社協へ職員を派遣するしくみがあります。派遣職員は主に、災害ボランティアセンターのスタッフや資金貸付などの業務を行います。